

秋田公立美術大学大学院 修了研究展 2019

Graduate Exhibition 2019

Mamoru Ogiso, Kaori Sasaki, Ryohel Suga, Kasumi Takahashi, Karin Tanaka, Junko Tanaka, Kanae Tsukamoto, Yurie Hiruma, Yuriko Fujimoto

小木曾 護・佐々木 香里・須賀 亮平・高橋 香澄・田中 夏鈴・田中 絢子・塚本 かな恵・蛭間 友里恵・藤本 悠里子

異なる専門性を持つ相手にどのような話し方をすれば良いのか？ チームの中で自分ではどのような役回りをするべきか？ どれくらい自分のやり方にこだわって良いのか？ 自分だけが持っている技術・考え方は何なのか？ それぞれの専門性が持つエッジを残しつつ共にいることは可能なのか？ はたしてその先に新たな創造の可能性を導き出せるのだろうか？

2019年2月15日〔金〕—19日〔火〕 秋田市にぎわい交流館AU 3階多目的ホール

開場：10:00 閉場：18:00（最終入館17:30まで）※初日のみ開始時刻13:00から ※最終日のみ最終入館16:30まで 入場料：無料 | 休館日：なし

企画：秋田公立美術大学大学院1期生 | 主催：秋田公立美術大学大学院 複合芸術研究科 協力：グラフィックデザイン=仲村 健太郎 | 会場構成=工藤浩平建築設計事務所
問い合わせ：秋田公立美術大学事務局 学生課 Tel: 018-888-8105 (平日8:30-17:15)

秋田公立美術大学
大学院 修了研究展
複合芸術研究科

秋田公立美術大学
AKITA UNIVERSITY OF ART

秋田公立美術大学大学院 複合芸術研究科は、2019年2月15日（金）から同月19日（火）までの期間において、「秋田公立美術大学 修了研究展 2019」を開催します。

本展は 2017年に開学した複合芸術研究科の第1期生による展覧会です。複合芸術研究科は、事象の成り立ちについて複合的に考える視点を持つことを基本とし、複数の既存の領域を横断することで新しい領域を切り拓き、アートや社会における諸問題に対して新たな切り口を提示することのできる研究・表現を目指しています。専門の異なる学生たちが互いの研究を理解し、グループワークでの実践を行うなかで、改めて自身の専門と向き合い、研鑽を積みました。本展では、2年間の研究・制作の集大成を一堂に展示・発表します。

また今回の展示では、個々の研究を展示する個人ブースと、来場者が集まることのできる空間が共存し、学生の成果発表の場としてだけでなく展覧会として楽しんでいただけます。通常のホワイトキューブでの作品展示とは異なる経験ができるよう工夫を凝らしました。学生たちの研鑽の成果をこの機会にぜひご覧ください。

■ 展覧会名：秋田公立美術大学大学院 修了研究展 2019

■ 主催：秋田公立美術大学大学院 複合芸術研究科

■ 後援：秋田市 | 秋田魁新報社 | NHK秋田放送局 | ABS秋田放送 | AKT秋田テレビ | AAB秋田朝日放送
CNA秋田ケーブルテレビ | あきびネット

■ 協力：仲村 健太郎（グラフィックデザイン） | 工藤浩平建築設計事務所（会場構成）

■ 企画：秋田公立美術大学大学院1期生

■ 会期：2019年2月15日（金）-2月19日（火）

■ 会場：秋田市にぎわい交流館AU3階 多目的ホール（秋田県秋田市中通一丁目4番1号）

■ 開場時間：10:00 - 18:00 | 初日13:00 - 18:00 | 最終日10:00 - 17:00 ※いずれも入館は30分前まで

■ 入場料：無料

プレスリリース

お問い合わせ 秋田公立美術大学事務局 学生課

[TEL] 018-888-8105 (平日8:30 - 17:15) [MAIL] gakusei@nts.akibi.ac.jp

〒010-1632 秋田県秋田市新屋大川町1-2-3

秋田公立美術大学
AKITA UNIVERSITY OF ART

複合芸術研究科について

秋田公立美術大学は、前身の秋田公立美術工芸短期大学が4年制大学に移行したことにより、東北地方に唯一の公立美術大学として、2013年4月に設置されました。

本大学は、社会の大きな変動に呼応し、古い概念にとらわれることなく新しい芸術領域の創造に挑戦する大学であることを基本理念として掲げ、既存の美術大学とは異なる区分の専攻構成がなされています。本大学に設置されている「アーツ&ルーツ専攻」「ビジュアルアーツ専攻」「ものづくりデザイン専攻」「コミュニケーションデザイン専攻」「景観デザイン専攻」の5つの専攻では、扱う資源や素材、表現媒体などを限定していません。テーマによって、古典や地域の資源を題材として扱いながらも、最新の媒体で表現を研究しています。自然と伝統文化に恵まれた秋田の文化的資源を活用し、芸術のもつ可能性、公共性を探求し、秋田から全国、世界へと、自らの芸術的感性と創造性をいかす社会に貢献する人材を送り出します。

また、2017年4月には新設の大学院として、秋田公立美術大学大学院 複合芸術研究科が設置されました。

複合芸術研究科では、事象の成り立ちについて複合的に考える視点を持つことを基本とし、複数の既存の領域を横断した先に新しい領域を切り開き、アートや社会における諸問題に対してこれまでにない回答を提示することのできる研究・表現を目指します。

本研究科は少人数制で、アートやデザイン、工芸、社会学、情報学、アーバン・スタディーズなどの領域で個別の表現手法を修めた学生が集まり、それぞれが自身の専門性を活かしながら、いくつかの領域を横断し、それらを独自の方法で再構築することを試んでいます。また、複合芸術の実践として、カリキュラムにおいてはグループワークでの実習が設定されており、領域の異なる学生同士が対話を重ねて得た結論を実践へと結び付けます。



展覧会ステートメント

私たち1期生は様々な領域の知識や技術、考え方と交わりながら個々の研究を深める中で、複数の問いを投げかけられてきました。異なる専門性を持つ相手にどのような話し方をすれば良いのか、チームの中で自分はどのような役回りをするべきか、どれくらい自分のやり方にこだわって良いのか、自分だけが持っている技術・考え方は何なのか、それぞれの専門性が持つエッジを残しつつ共にいることは可能なのか。はたしてその先に新たな創造の可能性を導き出せるのだろうか。

複合芸術研究科1期生による修了研究展では、このような問いかけの中で様々な要素と結ばれ、そして磨かれた9名の研究成果を発表します。異なるように思える個々の研究を観察し、9つの領域を横断した後に、ようやく「複合芸術」のかたちが立ち現れるでしょう。

秋田公立美術大学大学院 1期生一同

プレスリリース お問い合わせ 秋田公立美術大学事務局 学生課
[TEL] 018-888-8105 (平日 8:30 - 17:15) [MAIL] gakusei@nts.akibi.ac.jp
〒010-1632 秋田県秋田市新屋大川町 1 2 - 3

本展の特徴

1. 秋田公立美術大学大学院 開設後初めての修了展

本展は秋田公立美術大学大学院 複合芸術研究科開設と同時に入学した1期生9名による展覧会です。1期生9名はアートやデザイン、工芸、社会学、情報学、アーバン・スタディーズなどの異なる領域から集まり、グループワーク実習や様々な専門性を持つ教員との個別指導を経て、修了研究へと結び付けました。2年間、教職員と共に「複合芸術」という新しい枠組みを模索し、様々な問いを得た彼らが成果を発表する本展は、本研究科にとっても重要な機会となります。

2. 「複合芸術」のかたちを意識した空間構成

本展の展示空間は、会場中央に設けられた大きな空間とそれを取り囲むように設置された8つのブースによって構成されています。中央スペースにはテーブルや植物が設置され、会期中複数のイベントが開催されます。一方、8つのブースでは出展者一人ひとりの研究成果を展示いたします。人が集い、思考や言葉を交換し合う【複合的な空間】と、異なった研究領域の展示がなされる【個別的な空間】の2つが共存し、来場者はその両方を行き来しながら展覧会を鑑賞します。また、空間には単管パイプや植物、布など一般的な美術展示空間には使用されない素材が用いられ、細部までこだわった展示空間となっております。



修了展記録冊子についてのお知らせ



(本展チラシ画像)

仕様(予定)

発行：2019年3月

サイズ：B5

ページ数：64ページ

2019年3月に「秋田公立美術大学大学院 修了研究展 2019」展記録冊子の発行を予定しております。1期生による修了研究や修了展会場、イベントの記録、イベントゲストによる展覧会評、そして1期生による座談会記録を掲載する予定です。

8つの異なる紙種に印刷を施し、様々な素材感を楽しんでいただけるよう工夫を凝らした展覧会チラシと同じく、素材感やデザインにこだわった作りとなっております。修了展会場にてご予約いただけますので、展覧会と合わせてご鑑賞いただけると幸いです。

プレスリリース

お問い合わせ 秋田公立美術大学事務局 学生課

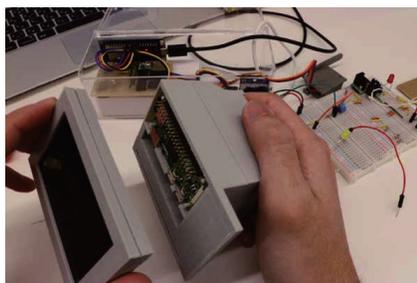
[TEL] 018-888-8105 (平日 8:30 - 17:15) [MAIL] gakusei@nts.akibi.ac.jp

〒010-1632 秋田県秋田市新屋大川町1 2-3

第1期生修了研究作品発表

異なる分野と複合せながら、既存の枠にとらわれない新しい芸術の探求、現代社会の動向や地域特性を捉えた具体的な提案、現代芸術領域における新たな領域の拡張に関する理論構築の試みなど、多様な研究が誕生しました。複合芸術研究科での2年間の集大成として、独自の研究によって生まれた修士研究の数々を展示・発表します。また、会場では修士論文や制作報告書もご覧いただけます。

研究題目一覧



《検索するものづくり》

小木曾 護

近年のメイカーズムーブメントやDIYの流れから、様々なデジタルファブリケーションの作例がネット上で共有されている。つまり、共有された作例をアレンジすれば、専門知識のない人でも様々なものづくりを行うことが可能だと言える。その行為を二次創作として捉え、デジタルファブリケーションの今後の問題や展望について模索する。



《現代日本における性別の価値体系についての考察 —腐女子の視点から—》

佐々木 香里

本研究は、BLを中心としたマンガにおける性別表現に対する考察と筆者自身の性別にまつわる個人的な省察を通して、現代日本における性別の価値体系について考察することを目的とする。その手法として、論考「青少年マンガとBLの関係性」とエッセイ「『ぼく』の来し方行く末」をワンセットとし、互いに補い合う文章の在り方を撰択している。



《「凧の国」制作報告 —フィクションとノンフィクションにより止揚する風景—》

須賀 亮平

あるひとつの風景の中にフィクションが反映された風景とノンフィクションが反映された風景があるとき、別々のものとして存在するそれぞれの風景が、発展的に統一化して新たな風景として現れることがある。アンドレイ・タルコフスキーの映画「ストーカー」を参照し、それをひとつの表現として捉え、制作した映像作品「凧の国」を発表する。



《秋田銀線細工の制作と発展 —伝統工芸のこれからの未来を切り拓くための挑戦—》

高橋 香澄

秋田銀線細工とは、秋田県指定の伝統的工芸品であるが、現在様々な問題を抱えており衰退の一途を辿っている。本研究では、存続の危機に陥っている秋田銀線細工の現状と課題について調査し、今後振興していくためのシステム作りや他分野との共同制作を行いながら、製品の多様化を図るような取り組みを行っている。

プレスリリース

お問い合わせ 秋田公立美術大学事務局 学生課

[TEL] 018-888-8105 (平日 8:30 - 17:15) [MAIL] gakusei@nts.akibi.ac.jp

〒010-1632 秋田県秋田市新屋大川町1 2-3



《在留外国人と日本の市民が協働する社会創造活動の可能性 ―秋田県における「多民族の共生」の調査と協働活動の実践から―》 田中 夏鈴

日本社会が抱える多文化状況の多様な課題を克服するための手段について、在留外国人と日本の市民が協働する社会介入型プロジェクトの実践を通して探る研究。秋田県で実践したプロジェクト『ハナコトバ』のなかで得られた経験と考察をもとに、将来的に日本が迎える新移民時代の市民社会のあり方への手がかりを提案する。

※現在、休学中のため展示はありません。



《若者の生活に寄り添う工芸 ―ライフスタイルからの提案―》

田中 絢子

近年、工芸に関心のある若者が増えてきている一方で、食卓で工芸品を「使う」機会は減ってきているように感じる。このことから、自身の専門領域である漆器を中心に、工芸品を「日常に馴染むあたりまえの食器」として活用してもらうため、工芸品があるライフスタイルやライフサイクルをイメージできる場の提案の研究を行っている。



《絵画制作における反復 ―トラウマの表現について―》

塚本 かな恵

本研究は、反復・絵画・トラウマの3点を軸に据え、芸術実践（主に絵画制作）において用いられる「反復」という手法が持つ意味や効果、あるいは解釈の幅を広げることを目的としている。現在、皮膚をモチーフとした作品制作を行っており、描画したキャンバスを解体し、それを縫い合わせて再び1枚のキャンバスにしていく手法での制作を進めている。



《現代アートと他分野との間に立つ仲介者のあり方 ―地域型アートプロジェクトの現場調査から―》 蛭間 友里恵

アートプロジェクトの運営プロセスには、アートを専門とする立場とアートとは異なるとされる立場の価値観があり、双方の視点から状況を捉えることが重要であると考え現場リサーチを実施した。プロジェクトに対する関わり方は開催地域の中で多様に存在し、著名な方や運営者に限らずインタビューを行った。その生の声を手がかりに、必要であるとする仲介者像を展開する。



《展覧会の外にあるアーティストの創作活動との交差 ―アーティスト秋田滞在企画「SUMMER STATEMENT 2018」の実践から―》 藤本 悠里子

「展覧会」には現れないアーティストの思考や言葉、出来事に目を向けるため4名の現代美術家を秋田に招聘し、滞在企画「SUMMER STATEMENT 2018」を実践、またプロジェクト報告展を開催。これらの活動を経て、アーティストによる新しい表現が生まれる現場をどのように創造できるか、キュレーターはアーティストの創作活動にどのように関わるのが可能かを探る。

プレスリリース

お問い合わせ 秋田公立美術大学事務局 学生課

[TEL] 018-888-8105 (平日 8:30 - 17:15) [MAIL] gakusei@nts.akibi.ac.jp

〒010-1632 秋田県秋田市新屋大川町1 2-3

修了研究展 2019 関連イベント

■オープニングセレモニー

ご来賓の方々と一緒に展示会のオープニングを学部生と合同でお祝いします。卒業・修了研究作品展 2019 実行委員会の学生代表による本展の簡単な見所の紹介や、ギャラリーツアーを予定しております。

日時：2月15日（金）13:00～13:30

会場：秋田市にぎわい交流館 AU 1階 まち発見・発信ステーション

※ギャラリーツアーは、オープニングセレモニーの後、本学の阪口正太郎教授と瀬沼健太郎教授の2名を交えて、学部・大学院の各展示スペースを回ります。

■芹沢高志による修了研究展公開講評

本学大学院客員教授で、P3 art and environment 統括ディレクターの芹沢高志氏をお招きして、修了研究について院生とトークセッションを行います。

出演：秋田公立美術大学大学院1期生、芹沢 高志

日時：2019年2月15日（金）18:00～20:00

会場：秋田市にぎわい交流館 AU 3階 多目的ホール

ゲストプロフィール：芹沢 高志（大学院複合芸術研究科客員教授）

1951年東京生まれ。1989年にP3 art and environment を開設。とかち国際現代アート展「デメーテル」総合ディレクター（02年）、アサヒ・アート・フェスティバル事務局長（03年～16年）、横浜トリエンナーレ 2005 キュレーター、別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」総合ディレクター（09年、12年、15年）、さいたまトリエンナーレ 2016 ディレクター、デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）センター長（12年～）などを務める。



■修了研究発表会

大学院専任教員に加えて、美学者である吉岡洋氏をお招きして、会場を巡りながら大学院生9名がそれぞれの修了研究についてプレゼンテーションを行います。

出演：秋田公立美術大学大学院1期生、大学院専任教員、吉岡 洋

日時：2月18日（月）18:00～21:00

会場：秋田市にぎわい交流館 AU 3階 多目的ホール

ゲストプロフィール：吉岡 洋（秋田公立美術大学客員教授）

美学芸術学、情報文化論。著書に『〈思想〉の現在形—複雑系・電脳空間・アフォーダンス』（1997）他。『Diatxt』、『ヨロボン』、『パラ人』編集長。「京都ビエンナーレ 2003」、「岐阜おのがきビエンナーレ 2006」総合ディレクター。文化庁世界メディア芸術会議 座長（10～13年）。作品 BEACON プロジェクトチームメンバー。京都大学こころの未来研究センター 特定教授。



プレスリリース お問い合わせ 秋田公立美術大学事務局 学生課
 [TEL] 018-888-8105（平日 8:30 - 17:15） [MAIL] gakusei@nts.akibi.ac.jp
 〒010-1632 秋田県秋田市新屋大川町1 2-3

■修了作品上映スケジュール

須賀 亮平 《凧の国》

日時：①10:00～ ②11:20～ ③12:40～ ④14:00～ ⑤15:20～ ⑥16:40～

※初日のみ④から⑥ ※最終日のみ①から⑤

会場：秋田市にぎわい交流館 AU 3階 多目的ホール

■ステージイベント

高橋 香澄 《あきた舞妓を輝かす—銀の花々 秋田銀線細工—》

修了研究として制作した秋田銀線細工の帯留めと簪をあきた舞妓さんに身につけていただき、ステージで踊りを披露していただきます。また、演舞だけではなく、舞妓さんとのお座敷遊びや写真撮影なども予定していますので、ぜひこの機会に秋田の文化と工芸に触れてみてください。

出演：あきた舞妓（株式会社せん）

日時：2月16日（土）15:00～16:00

会場：秋田市にぎわい交流館 AU 1階 まち発見・発信ステーション

■パフォーマンス

蛭間 友里恵 《なにか》

現地にてなにかを行います。

日時：不定期

会場：秋田市にぎわい交流館 AU 3階 多目的ホール 他

■関連展覧会

藤本 悠里子 企画展 《「応答」～ SUMMER STATEMENT 2018 報告とその後～》

本展覧会は大学院2年生の藤本悠里子による修了研究プロジェクトの一環です。2018年9月に関西圏を拠点に活動するアーティスト4名を秋田に招聘しアーティスト滞在企画「SUMMER STATEMENT 2018」を行いました。本展では滞在の記録、そしてアーティストと企画者による活動の成果を「SUMMER STATEMENT 2018」への応答として発表します。修了研究展と合わせて、ぜひご来場ください。

会期：2018年12月15日（土）～2019年2月24日（日）9:00～18:00

会場：秋田公立美術大学ギャラリー BIYONG POINT（秋田市八橋南一丁目1-3 CNA 秋田ケーブルテレビ社屋内）

出展作家：寺岡海（現代美術作家）、神馬啓佑（同左）、船川翔司（同左）、来田広大（同左）

プレスリリース

お問い合わせ 秋田公立美術大学事務局 学生課

[TEL] 018-888-8105（平日 8:30 - 17:15） [MAIL] gakusei@nts.akibi.ac.jp

〒010-1632 秋田県秋田市新屋大川町1 2-3